

NEWS RELEASE

2022年2月1日

日本豆乳協会

SOY2013

日本豆乳協会
全国の高校生を対象に豆乳摂取に関する
アンケート調査を実施
～ 家庭内で豆乳購入率、生徒の豆乳摂取頻度も増加傾向に ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：藤村 公苗 キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2019年から若年層における豆乳摂取の実態に関するアンケート調査を実施しています。第3回となる今回は、家庭内での豆乳購入率が増加していること、生徒の豆乳摂取頻度も増加傾向にあることが分かりました。

日本豆乳協会では、2021年10月から12月にかけて、若年層にける豆乳の摂取状況を確認するため、「スポーツ×豆乳キャンペーン」に参加した全国19校約14,000名の生徒を対象に豆乳の摂取に関するアンケート調査を実施しました。その結果、約10,000件のアンケートサンプルを回収し、高校生や各家庭における豆乳の摂取状況を把握しました。

調査の結果には、地域差や男女差は見られず、全体の約80%が「豆乳の摂取経験」があり、「豆乳をよく飲む」、「豆乳をたまに飲む」という回答が年々増加傾向（前年比約10%増）にあります。また、豆乳を購入している世帯の割合も増加しており、53.4%の家庭で「豆乳をいつも購入している」、もしくは「豆乳は家にある」と答えています。「豆乳を今後も飲んでみたい」という生徒が全体の約85%を占め、2019年（66.3%）、2020年（75.5%）と比較し、年々10%ずつ上昇しています。生徒の間で、「豆乳鍋」や「（豆乳の）スイーツやデザート」などを通し、豆乳を摂取していることや、2019年、2020年のアンケート結果との比較から、豆乳に対して好意的な印象を持ち、摂取の機会が増加し、愛飲意向が高まっている傾向が見て取れます。

豆乳協会では、主に高校生を対象とした食育活動を積極的に展開しています。豆乳の特長や有効性をわかりやすくまとめた広報誌を発行し、高校生を中心に配布するとともに、高校へ出向いて実施する「豆乳食育移動教室」や「スポーツ×豆乳キャンペーン」の活動等を通して、若年層に植物性たんぱく質摂取の重要性や豆乳や大豆食品等に関する啓発活動を行っています。また、豆乳協会では、今後、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2020年3.4ℓ / 総人口12,500万人）、年間総生産量を50万ℓ（2020年：43万ℓ）にすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

スポーツ×豆乳キャンペーン：

豆乳協会が実施している「スポーツ×豆乳応援キャンペーン」は、全国のスポーツ強化校に指定されている高校に対し、良質な植物性たんぱく質が豊富な豆乳の摂取を通し、体づくりを促進するため、豆乳協会が希望する学校に豆乳を協賛している。2021年は、10月から12月まで実施し、全国19校に約14,400本の豆乳を協賛した。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル
田中/岩野

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017